**＜災害時、ボランティア派遣について＞**

**☆ボランティアを…A.派遣する**→１-aクラッシュで募集→クラッシュで現地ベースを置く

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　→１-b現地団体へ送る

　　　　　　　　　　　　　　→２現地団体に直接申し込み（広報にて支援）

　　　　　　　　　**B.派遣しない**

㊟熊本支援の際は、４月～５月は①-a、６月以降は①-bに切り替え

※派遣する場合は受け入れ体制が整ってから募集をかける。

　　　　㊟受け入れが確定しないうちに募集することによって、即現地入りしたい人を無駄に待たせてしまった。（クラッシュが保留にしたことで九キ災の方へ自分でレジストレーションし直していた人も多かった。）またボランティア可能日が

あいまいなままレジストレーションして来た人も多く、結局派遣に繋がらなかったケースも多数発生。

また、日本語が話せない外国人の派遣も要検討。

**1.クラッシュで募集する場合の手順**　（a.b共通）

　・募集をかける…ウェブサイト、fbにて広報。ウェブサイトに登録フォームを開く。

㊟スムーズな派遣に繋げるために、登録段階でボランティア可能日を明確にする

　・スクリーニングのメールアカウントにて登録フォーム受信。

　・ボランティア希望者との連絡には必ずスクリーニングアカウントを使用。

・スクリーニングパケット送付。

　　(スクリーニングパケットには現地インフォメーションシート、Agreement& wavier、

外国人の場合は牧師推薦状含む)

　・スクリーニングパケットの返送を受けて登録完了。

　・派遣日程の調整、現地受け入れ可能日の確認（作業日、宿泊有無、通訳必要の有無など）

→派遣へ

㊟１-a クラッシュでベースを置き派遣する場合、データベースの有効利用（情報の共有、派遣日程の調整作業など）が考えられるが、１-bの場合はデータベースの入力作業による二重作業の負担を減らすため、後日入力（記録のため）にした方が良いかと思われる。スクリーニングのメールアカウントの使用を厳守することで複数スタッフでの情報共有が可能。

**１-bの場合**

　・現地受け入れ団体との調整が必要…受け入れ条件、担当者、連絡方法の確認。契約締結？

㊟熊本の際にはごり押し的にクラッシュ経由のボランティアを押し込むような状況になってしまった。受け入れ先団体の手順を尊重する

必要がある。特に日本語が話せない外国人の派遣には注意が必要。(通訳者がいないと作業出来ないため熊本ではセットで派遣。)

　　 ・クラッシュからスタッフを派遣する場合は現地での役割を明確にする。(本部との連携など)

㊟熊本時、ジャスティアーノ先生の派遣に関しては事前の打ち合わせ不足。派遣中ほとんど連絡が取れなかったため、現地団体との連絡

交渉役など期待していたクラッシュスタッフとしての役割を担ってもらうことが出来なかった。

※データベースの使用に関しては、FHとの意見交換が出来ると良い。

　九キ災ではすでに使用停止している模様。